

横浜

障害者の手作り品販売20周年 書店で作業所製品いかが？

横浜市内の障害者作業所で作られた手芸品などの期間限定販売が3日、市内の書店「有隣堂伊勢佐木町本店」（同市中区）1階の店内で始まった。同社の販売は1999年にスタートし、今年20周年を迎えた。

主催は横浜市精神障害者地域生活支援連合会、横浜市障害者地域作業所連絡会。「手づくり製品フェア」と題

し、29日まで両会加盟の24の作業所の約400点の製品が並ぶ。今回のフェアのために製作したブックカバー



店舗の外にも布で作ったぞうりを並べた

廃棄予定の点字書籍の紙をミシンで縫い合

てもらいたい」と話している。フェア期間中の売り上げは例年1日1万円ほど。主催団体はフ

（福田敏克）

・モール」にあり、来客数の多さが魅力の一つだ。今年のは横浜の港を描いたブックカバー（税抜き1800円）。主に精神障害者が通う就労継続支援B型事業所「ゆめが丘D C」（泉区）が今回のフェアに合わせて作っ

代表する繁華街「イセザキ